

“いえ”的がたちをあらわした字ですが、 “いえ”と、すう字の “ろく”とおなじ音オンだったのです、 “すう字”的 “ろく”のいみにつかわれるようになりました。

“やね”的ぶんは「三つのぼう」のあつまりとみると、ことができますし、 “ハ”は“分ける”いみのしるしますから、「三つを一つに分けて六つになる」とかんがえることもできます。

八
年
画数 4
筆順
山 ナ 六
クシ む・む二つ・むつ二つ・むい
オン

△むかし、ながさのたんいに“尺”があり、“六尺”を一イツ間（約一・八メートル）といいました。たたみのながさがこれです。

熟語例
▽ 六法 (ケンポウ) (憲法、刑法、民法など六つの法律のこと。)
▽ 六根 (ロッコン) (目、はな、耳、した、からだ、こころ)
▽ 六道 (ロクドウ) (地獄道、ガキ道、畜生道、シユラ道、人間道、ニンゲン)
▽ 天上の六つの世界 (テンジヨウ) (天上の六つの世界)
▽ 六十余州 (ロクじよしゅう) (日本ぜんこく。むかし、六十余のくにだつたので。)

“いえ”的たちをあらわした字ですが、 “いえ”と、すう字の “ろく”とおなじ音オンだったのですで、 “すう字”的 “ろく”のいみにつかわれるようになりました。

“やね”的ぶんは「三つのぼう」のあつまりとみると、ことができますし、 “ハ”は“分カセける”いみのしるしですから、「三つを一つに分けて六つになる」とかんがえることもできます。

“木”という字をふたつならべて、「木がたくさんたちならんでいる『はやし』」をあらわした字です。

「ひとやものが“林”的ようになたくさんあつまつているところ」をあらわすことばとしてつかうことがあります。たとえば、「書物(しおくもの)一本(ほん)」がたくさんあるところ」を“書林(しきりん)”といいます。また、「ことば(ことば)たくさんあつめてせつめいしたほん」を“辞林(じりん)”というのもこのれいです。

林

1

すみがたのしみです。

▽うら山に“くり林”があつて、あきになると、よくくりひろいにいきました。

林

クン
オン
筆順
画数
はり木 8

ヤン林

です。

▽林間（リソカノ）
—「林の間」といふいみのことばで、「林の中」の
熟語例

△林立（りんりつ）
—「林のよう立っている」といういみのことば

▽林道（林の中につくった道。ざい木をはこぶためにつて「ものかひつしりとならんでいる」ことです。）

くった道です。△植林（山などに木を植えて、林をそだてるのこと。）
（ジョクリン）

▽密林（“密盛”は“すきまがない”こと。すきまもないほどにしげつた林のこと）で、ねつたいいちほうに見られ

△ 防風林（ぼうふうりん）
（風のつよくふくいちほうで、風を防ぐために植
るもののです。『ジヤングル』といわれています。）

▽
防砂林（ボウサリン）
えられた林のこと。
（風にとばされる砂を防ぐために植えられた林。）

四庫全書

卷之三

使い方

むかし、ながさのたんいに“尺”があり、六尺を一間（約一・八メートル）といいました。たたみのなが

さがこれで。 热語例

六法（憲法、刑法、民法など六つの法律のこと。）
六根（目、はな、耳、した、からだ、こころ）

六道(地獄道、ガキ道、畜生道、シユラ道、人間道、
天上の六つの世界)

六十余州（日本ぜんこく。むかし、六十余のくにだつたので。）